

9月号

School Aid Japan

スクール・エイド・ジャパン

Dream通信

2013. 9. No.66



夏休みを利用した野外活動の報告 ～海遠足と農業実習～



海の中でポーズ



皆で分けて、浜辺で食べるスイカの味は格別



ボコー国立公園の見晴し

皆さん、こんにちは。日本では、まだまだ暑さが残る季節でしょうか。カンボジアの季節は今、雨季に当たりますが、通年より雨が少なく、日差しの強い毎日です。子どもたちは7月下旬に学年末を迎え、ただいま夏休みの真っただ中です。カンボジアの夏休みは日本より長く、9月の下旬まで続きます。園では夏休み中でも、毎日補習授業が行われています。子どもたちは皆、暑い中でも汗をかきながら勉強に励んでいます。

さて、今回のDream通信では、この夏休みを利用して行なった海遠足、昨年に引き続き2回目となった農業実習の2つをお伝えします。

海遠足

8月8日から9日の2日間、2年に1回の行事であるシハヌークビル市への海遠足へ行ってきました。この遠足は「毎日勉強に農作業に頑張っている子どもたちへのご褒美」「カンボジアの様々な文化に触れること」「団体行動を通して協調性や思いやりの心を養うこと」を主な目的としています。

シハヌークビル市は、園から南に車で6時間ほどの場所にあります。朝6時に園を出発し、ビーチに到着したのはお昼過ぎでした。まずは待ちわびていた海水浴です。20分ごとの点呼を行い、安全確認は欠かしません。遊ぶ範囲を指定し、その中で子どもたちは水の中に潜ったり、ボール遊びや砂浜遊びをしたりと、思い思いに、時間いっぱい楽しむことが出来ました。

その後、市内見学にも出かけました。ビーチリゾートとして国内外からたくさんの観光客を集めている市内や港などをまわり、ゆっくりと進む車の中では、「あれは何？」と、子どもたちからの興味いっぱいの質問が途切れませんでした。

翌日はボコー国立公園へ行きました。ボコー山はカンボジアで一番高い山です。山頂には、植民地時代にフランス人が避暑地として訪れていた建物が廃墟となって残っており、カンボジアの歴史の一部分に触れることができます。その廃墟の上階からは、森と海が広がる絶景を望むことが出来ます。子どもたちはその素晴らしい眺めに感動し、ずっと見入っていました。



全員で記念撮影



農場長の説明を熱心に聞きます



レモングラス畑の除草



レモングラスの収穫

2日間、ときどき小雨も降る曇り空でしたが、そんな空模様を吹き飛ばすように、子どもたちのワクワクした好奇心や、喜び、明るさ、元気さで満ちていました。

今回の遠足で、子どもたちは自分の国の知らなかった一面をたくさん知ることができました。美しい自然、自分たちとは違う地域で暮らす人々の生活、活気溢れる街や人、空気を身近に感じた遠足の後には、もっと色々なところに行ってみたい、ホテルやレストランで働きたいなど、それぞれの思いを語ってくれました。この経験を元に、カンボジアという国に誇りを持ち、自分たちの力でさらに国を良くしたい、と感じてくれることを期待します。そしてこれからの国の発展に関わっていけるような人になれるよう、指導していきたいと思います。

農業実習

コンポンチュナン州にあるSAJ Farmに第2回農業実習に行ってきました。中学生以上の子どもたち32名が、4つのグループに分かれ、それぞれ5日間にわたり農場で寝泊まりし、農業の仕事を体験しました。

農業実習中は、SAJ Farm農場長の指示に従い、他の職員と同様の仕事をします。そして食事の準備やその他生活に関わることを全て自分たちで行います。それを通して、仕事の大変さや毎日コツコツと頑張ることの大切さなどを学ぶことが、農業実習の目的です。

実習中の作業は主に、レモングラス畑の除草、レモングラスの収穫、選別、乾燥、その他畑や田んぼの除草などです。照りつける日差しのもと、子どもたちは帽子やタオルをしっかりとかぶり、毎日汗だくになりながら作業を続けました。一定のペースで鍬を入れる作業は力を使い、根気も必要です。13haの敷地一杯に広がる畑を前に、毎日の作業が果てしなく感じ、諦めそうにもなりました。しかし、お互いに励ましあい、毎日夜にはマッサージをし合って助け合いながら、5日間を乗り切りました。毎日の食事や作業が終われば勝手に出てくるわけではありません。その日の当番の子どもたちが市場に行って食材を購入し、作業の合間をぬって用意します。その大変さを全員が体験するからこそ、「ありがとう、おいしいね」と自然に感謝の言葉と笑顔があふれます。

今回の実習を通して、子どもたちは、働くことの大変さ、食事のありがたみ、感謝すること、助け合うことの大切さを、身をもって学んできました。園での生活においても、また将来の生活の中でも、感謝の気持ちと助け合いの心を忘れずに、毎日勉強も農作業も一所懸命取り組むことで、子どもたちには、さらに大きく成長して欲しいと願います。